

ことばの
意味を
学ぼう

青年訓 ⑥

徳を積みつつ進めよ和せよ 自然の恵は必ず降る

●青年訓
天恵地恩に感謝を捧げ 報恩奉仕が人の道
道に遵いざ奮い起て 平和の建設我等の使
命 逆巻く怒濤猛くとも 天意は固く揺るぎ
なし 泰然自若訓練に耐えよ 事に臨んで不
動なれ 真理つかめば心は躍る 大地踏みし
め天職努力 徳を積みつつ進めよ和せよ 自
然の恵は必ず降る 暗い世道に悲観をするな
明るい朝が待っている 一步踏み出し大空望
め 光明希望が展げくる 怒るな責めるな苦
しむな 善きも悪しきもみな鑑 憂い打ち捨
ていざ突き進め 信念一つで万事を開く

相手の幸せを真に願う行動
する徳積みのは、神仏の喜
ばれることです。そこに幸せ
に恵まれる絶対の運びが生ま
れます。

- ※ 徳 ▶ 善行、善道、正義、道義など、道を行なって体得した人の立派な行ない。
- ※ 和 ▶ 互いに仲良くすること。
- ※ 自然の恵 ▶ 神仏から与えられた恵み。
- ※ 降る ▶ 高い地位の人から下げ渡されること。



徳を積むということの実践的な例
として、仏教の教えの中に布施行と
いうものがあります。何かお金や物
を捧げること(財施)を連想してし
まいますが、それだけではありませ
ん。身施といって、身体を使って人
を助ける布施や、心施、顔施といっ
た人に思いやりの心を持ち、笑顔で
話しかけることも布施の一つです。
そして法施という正しい考えを伝
える布施もあり、解脱会員ならば解
脱の学びを深めそれを伝えて人身救
済をはかることで、これは特に素晴
らしい徳積みなのです。

しかしそのとき注意が必要です。
それは「やってあげた」と恩を着せ
ること。自分の心の中に相手からの
感謝を求めたり、周りの評価を求め
たりする心が湧いてきて、その上、

思うような反応が得られなければ相
手を責める心まで出てきます。それ
では自分の人格を下げるようなもの
です。徳積みの土台となる心は、「こ
のような私でよければお遣いくださ
い」という感謝報恩の心です。

そうした心で行なえば、決して「し
てあげた」という気持ちになりませ
ん。やはり、いつも謙虚に与えて求
めない心で喜んでさせてもらうこと
が第一条件です。そして誰もがこの
ような心でお互いに尽くし合えた
ら、自然と和がこの世界に広がって
いくでしょう。

私たち人間は、徳積みをしていく
中で人格のレベルが上がり、知らず
知らずのうちに神仏からの相応しい
恵みが与えられるのです。まずは自
ら実践体得していきましょ。